

[施策6] 認知症の人と家族が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし続けることができる
共生社会づくりの推進

市民一人ひとりが認知症への理解を深め、「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができる」という新しい認知症観を広げるとともに、認知症の人と家族が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らし続けることができるよう、活躍できる機会や場をつくる取組を推進するなど、認知症の人や家族の視点を重視しながら相互に支え合う共生社会の実現を図ります。

(1) 市民一人ひとりが認知症への理解を深め、「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができる」という新しい認知症観を広げる取り組みの推進

市民一人ひとりが認知症への正しい理解を深め、「認知症になったら何もわからなくなる」という否定的なイメージから、自分事としてとらえ「認知症になっても、ともに希望を持って生きることができる」という新しい認知症観へと転換できるよう取り組みを進めます。

古い認知症観(古い常識・文化)

(他人ごと、問題重視、疎外、絶望)

- ①他人ごと、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何もわからない、できなくなる
- ③本人は話せない/声を聞かない
- ④おかしい言動で周りが困る
社会の負担
- ⑤危険重視
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方
- ⑧認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑨地域で暮らすのは無理
- ⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望的

新しい認知症観(新しい常識・文化)

(わがこと、可能性重視、ともに、希望)

- ①わがこと、向き合う、備える
- ②わかること、できることは豊富にある
- ③本人は声(サイン)を出せる/声を聴く
- ④本人が認知症バリアの中で一番困っている
バリアをなくし、暮らしやすい地域を創る先駆け
- ⑤あたりまえのこと(人権)重視
- ⑥本人が決める(決められるような支援)
- ⑦本人は支え手でもある。「ともに」ある、支え合う
- ⑧認知症でも自分は自分、オープンに
- ⑨地域の一員として暮らし、活躍
- ⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望を



出典：令和 5 年 1 月 認知症地域支援体制整備全国合同セミナー資料
(認知症介護研究・研修東京センターホームページ) をもとに作成

① 認知症に対する正しい理解の促進

認知症の人の言葉や視点を重視し、自分事として認知症をとらえることができるよう、認知症の正しい知識と認知症の人に対する理解の普及啓発に努めるとともに、相談窓口の周知及び充実・強化を図ります。

主な取り組み(案)
<ul style="list-style-type: none">◆ <u>認知症サポーター養成講座の実施の拡充</u>◆ 認知症パートナー講座の実施◆ <u>認知症カフェ等の設置及び活動推進</u>◆ <u>幅広い世代に向けた新しい認知症観の普及啓発</u>☆ <u>認知症月間(9月) 認知症の日(9月21日)における認知症の普及啓発</u>◆ 認知症地域支援推進員等を中心とした普及啓発◆ 地域包括支援センターによる認知症をテーマにした教室の開催◆ 福祉系大学等との協定による認知症対応の充実◆ 認知症介護研究・研修仙台センターと連携した研修事業等の実施◆ シルバーセンターにおける介護講座の実施(再掲)◆ 認知症ケアパス^{※1}(全市版・地域版・個人版)の普及・更新

※1「認知症ケアパス」: 認知症かもしれないと不安に思っている方や認知症と診断された方、家族の方などが、「いつ」・「どこに」・「どのような」相談先があるのか、サービスが受けられるのか、などの認知症とともに生きるために必要な情報を整理した冊子。

② 認知症の人と家族の参画と本人発信支援

認知症の人や家族がさまざまな事業に参画・提言できる取り組みや、認知症の人が希望を持って暮らすことができるよう、認知症の人とともに新しい認知症観を広げます。

主な取り組み(案)
<ul style="list-style-type: none">◆ 認知症の人や家族がさまざまな事業に参画・提言できる取り組みの推進☆ <u>認知症の人とともに、新しい認知症観を広げるための媒体(動画、ホームページ等)を作成</u>◆ <u>ピアサポート活動支援事業の促進</u>☆ <u>新たなピアサポーターを増やす仕組みづくり</u>◆ 認知症パートナー講座の講師等としての取り組みによる普及啓発の推進☆ <u>認知症の人の意思決定を後押しする「希望をかなえるヘルプカード」の普及・活用推進</u>☆ <u>認知症地域支援推進員等で「本人の何気ないひとこと」を記録、集約し、関係機関とともに、課題解決に向けた取り組みを推進</u>

(2) 認知症の人の生活におけるバリアフリー化と共生社会づくりの推進

認知症になっても、できるかぎり住み慣れた地域で日常生活を続けていけるような取り組みを、認知症の人や関係機関と連携し進めるとともに、認知症があってもなくても同じ社会の一員として、地域で共に暮らし、地域を一緒に創っていく共生社会づくりを推進します。

① 認知症の人と家族が希望を持って暮らし続けることができる取り組みの強化

認知症は誰もがなりうるものであることを踏まえ、相互に支え合いながら、希望を持って暮らし続けることができる取り組みを強化します。

主な取り組み(案)
<ul style="list-style-type: none">◆ <u>認知症サポーター※²養成講座の実施の拡充</u> (再掲)◆ 認知症パートナー※³講座の実施 (再掲)☆ <u>認知症パートナー情報交換会の実施</u>☆ <u>仙台版チームオレンジ※⁴の設置に向けた検討</u>☆ <u>認知症の人が安心して買い物ができる体制づくりの検討</u>◆ <u>認知症カフェ等の設置及び活動推進</u> (再掲)◆ 認知症ケアパス (全市版・地域版・個人版) の普及・更新・<u>配架</u>等を通じた地域における支援体制の構築の推進☆ <u>認知症地域支援推進員の配置先の拡充</u>◆ 認知症介護研究・研修仙台センターと連携した研修事業等の実施 (再掲)☆ <u>認知症の本人と家族への一体的支援実施に向けた検討</u>◆ <u>若年認知症に関する普及啓発と研修等の周知</u>☆ <u>若年性認知症の人を対象としたつどいの周知</u>☆ <u>認知症の人の意欲及び能力に応じて働くことができる場の確保に向けた周知・啓発</u>◆ 行方不明高齢者等を早期に発見・保護するためのSOSネットワークシステムにおける警察署、タクシー会社等関係機関との連携◆ 認知症の人の見守りネットワーク事業による行方不明高齢者等の搜索支援◆ 介護サービス基盤の整備☆ <u>医療・介護・相談機関における効果的な地域包括ケアシステムのあり方の検討(再掲)</u>

※² 認知症サポーター：認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする人。

※³ 認知症パートナー：認知症の人の思いや希望に耳を傾け、味方となって一緒に歩む人。

※⁴ チームオレンジ：認知症の人や家族のニーズと認知症サポーター、認知症パートナーを中心とした支援をつなぐ仕組み。

② 認知症の人が役割を持ち、地域づくりの一員として活躍する機会や場の創出

認知症になっても、支えられる側だけではなく支える側としての役割や、個性や能力を発揮し生きがいを持って生活することができるよう、さまざまな事業や場に参画する機会を設けます。

主な取り組み(案)
◆ 認知症の人や家族がさまざまな事業に参画・提言できる取り組みの推進 (再掲)
☆ <u>認知症の人とともに、新しい認知症観を広げるための媒体(動画、ホームページ等)を作成(再掲)</u>
◆ <u>ピアサポート活動支援事業の促進(再掲)</u>
☆ <u>新たなピアサポーターを増やす仕組みづくり(再掲)</u>
◆ 認知症パートナー講座の講師等の役割の創出(再掲)
☆ <u>認知症の人の意欲及び能力に応じて働くことができる場の確保に向けた周知・啓発(再掲)</u>

③ 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護

日常生活や社会生活等において、認知症の人の意思が適切に反映された生活が送れるよう取り組むとともに、権利擁護に関する相談・支援や成年後見制度の制度利用に向けた支援等に適切につながるよう取り組みます。

主な取り組み(案)
◆ <u>認知症ケアパス個人版の普及・活用促進</u>
☆ <u>認知症の人の意思決定を後押しする「希望をかなえるヘルプカード」の普及・活用推進(再掲)</u>
☆ <u>認知症地域支援推進員等で「本人の何気ないひとこと」を記録、集約し、関係機関とともに、課題解決に向けた取り組みを推進(再掲)</u>
☆ <u>介護支援専門員(ケアマネジャー)等への、認知症の人の意思決定を支援するツールの活用等の啓発</u>
◆ 介護従事者向けの各種研修への認知症の人の意思が適切に医療に反映されるための意思決定支援に関するプログラム導入
◆ <u>地域包括支援センターによる権利擁護及び成年後見制度の活用に関する相談・支援(再掲)</u>

④ 認知症の人の介護家族等への支援の充実

認知症の人を介護する家族が孤立することがないように、悩みなどを共有する場づくりや介護家族等に寄り添い、個々の状況を配慮した相談支援の充実を図ります。

主な取り組み(案)
◆ 認知症の人や家族がさまざまな事業に参画・提言できる取り組みの推進(再掲)
◆ <u>認知症カフェ等の設置及び活動推進(再掲)</u>

◆ 認知症の人と家族の会宮城県支部と連携したもの忘れ電話相談と介護経験者による相談会の開催

◆ 認知症の人を介護する家族交流会の開催など家族支援の強化

◆ 認知症初期集中支援チームによる支援の実施

☆ 認知症の本人と家族への一体的支援実施に向けた検討（再掲）

☆ 民間商業施設等の場で気軽に相談できる相談会等の実施

(3) 医療・介護専門職等の多職種連携による認知症への対応力の強化

認知症の人や家族への支援において重要な役割を担う医療・保健・福祉の関係機関の多職種連携強化を図るなど、支援体制を充実します。

① 認知症の早期相談・早期診断・早期対応のための支援

認知症の可能性のある人に対して、地域包括支援センターや認知症初期集中支援チーム、かかりつけ医、認知症サポート医、認知症疾患医療センター等が連携し早期相談・早期診断・早期対応につなげます。

主な取り組み(案)
◆ 地域包括支援センター等による早期支援等の対応の強化
◆ 認知症の人と家族の会宮城県支部と連携したもの忘れ電話相談の実施
☆ <u>認知症対応薬局等による認知症相談窓口の周知・啓発</u>
☆ <u>自分でできる認知症の気づきチェックシート等の普及啓発</u>
☆ <u>民間商業施設等の場で気軽に相談できる相談会等の実施（再掲）</u>
◆ 認知症初期集中支援チームによる支援の実施
◆ <u>認知症疾患医療センターによる鑑別診断や相談、関係機関との連携、診断後支援の拡充</u>
☆ <u>認知症の人同士が早期に出会える体制づくり</u>
◆ 仙台市認知症対策推進会議の開催による関係機関との連携
◆ 地域ケア会議による地域の関係機関の連携強化
◆ かかりつけ医、認知症サポート医、その他医療専門職や介護職、地域関係者の連携の促進
◆ 認知症アセスメントシートの活用による的確なアセスメントの普及と関係機関による円滑な情報共有の推進

② 医療従事者の認知症対応力向上

認知症の人に関わる医療従事者を対象に、認知症の人と家族が尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすために必要な基本知識や、医療・介護連携の重要性について理解を深めるための研修を実施します。

主な取り組み(案)

- ◆ 認知症サポート医養成研修・フォローアップ研修の実施
- ◆ かかりつけ医師・病院勤務の医療従事者・歯科医師・薬剤師・看護職員の認知症対応力向上研修の実施
- ◆ 医療従事者向けの各種研修への認知症の人の意思が適切に医療に反映されるための意思決定支援に関するプログラム導入

③ 介護従事者の認知症対応力向上

認知症の人の意思と尊厳を尊重した上で、状態に応じた適切な支援が提供されるよう、認知症介護等に関する研修を実施し、介護従事者の認知症対応力の向上を図ります。

主な取り組み(案)

- ◆ 認知症介護実践研修（実践者研修、実践リーダー研修）の実施
- ◆ 認知症対応型サービス事業開設者研修、管理者研修の実施
- ◆ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修の実施
- ◆ 認知症介護指導者養成研修の実施
- ◆ 認知症介護指導者フォローアップ研修の実施
- ◆ 研修事業等における認知症介護指導者ネットワーク仙台との連携
- ◆ 認知症介護研究・研修仙台センターと連携した研修事業等の実施（再掲）
- ◆ 介護従事者向けの各種研修への認知症の人の意思が適切に医療に反映されるための意思決定支援に関するプログラム導入（再掲）
- ☆ 介護支援専門員（ケアマネジャー）等への、認知症の人の意思決定を支援するツールの活用等の啓発（再掲）